

CL-6-Ⅲ-07	<b>症候を読む</b>	第6学年	前期 選択	1単位
<b>担当者</b>	武藤 章弘			
<b>一般目標 (GIO)</b>	臨床現場において、薬剤師は種々の症状より、問題となる身体の病的変化や病態を理解し、適切な薬剤の情報提供や疑義紹介ができる事が求められる。そのために、代表的な症候（発熱、全身倦怠感、頭痛など）、一般的な臨床検査、画像診断に関する基本的知識を修得する。			
<b>到達目標 (SBOs)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>代表的な症候について基本的な知識を習得する。</li> <li>症候に基づいて身体の病的変化、病態を説明できる。</li> <li>症候に対する適切な薬剤等の治療の選択について考える。</li> <li>一般的な検査法について説明でき、異常な検査結果をきたす代表的な疾患を説明できる。</li> </ul>			
<b>受講心得・準備学習等</b>	講義、演習、実習等で構成されていくので、積極的に参加すること。わからない点については積極的に話題に挙げて、当日に理解していくように努めること。各テーマに分けて進むため、講義日程を確認して、事前に教科書、薬剤師国試対策参考書（病態／薬物治療）の症候、検査に関する部分を30分程度で読んでおくこと。			
<b>事後学習・復習等</b>	下記にあげた参考書の症候、検査に関する部分を再度一読することを勧める。演習で作成した課題レポートは後日返却するので、再度見直しておくこと。			
<b>オフィスアワー</b>	おおむね毎週火曜日午後5時から6時、毎週水曜日午後5時から6時半。			

### 授業の形式と各回の内容

授業の形式		3時限分を使って、一つのテーマに関する講義、SGD、実技・実習、演習として課題レポートを作成する。
回	項目	内容
1	症候学総論	医療面接(問診)について。発熱、倦怠感などの全身症状。
2	全身性疾患	血液検査、尿検査、画像診断について。
3	全身性疾患	全身症状をきたす疾患についての演習。
4	神経疾患	意識障害、頭痛、麻痺、知覚障害などの神経系症候。
5	神経疾患	神経系検査法
6	神経疾患	意識障害、頭痛などの神経症状をきたす疾患についての演習。
7	呼吸器・循環器疾患	ショック、呼吸困難などの呼吸器・循環器系症候。
8	呼吸器・循環器疾患	呼吸器・循環器系検査法。
9	呼吸器・循環器疾患	呼吸困難などをきたす疾患についての演習。
10	消化器疾患	腹痛、黄疸などの消化器症状。
11	消化器疾患	消化器系検査法。
12	消化器疾患	黄疸などの消化器症状をきたす疾患についての演習。

<b>成績評価の方法</b>	毎回課される課題を用いて評価する。
<b>成績評価の基準</b>	提出された課題レポートを評価して、60点以上を合格点とする。
<b>教科書</b>	齋藤英胤、亀井淳三編「Principal Pharmacotherapy」(ネオメディカル)
<b>参考書など</b>	医療情報科学研究所編「病気がみえる (1.消化器、2.循環器、7.脳・神経)」(Medic Media) 服部豊 「薬剤師のための症候学(第2版)」(慶應義塾大学出版会) 星恵子ほか編「やさしい臨床医学テキスト」(薬事日報社) 「国試対策参考書 7.病態/薬物治療」(薬ゼミ)